

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内2丁目13-5		
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果市町村受理日	平成29年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detai.1.2016.022.kami.tr.ue&ji.gvovsOd=2170400481-00&Pr.efOd=21&Ver.si.onOd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の気持ちに寄り添いその人らしい生活をして頂く ・出来る範囲、外に出て頂き外の空気、自然に触れて頂くこと ・ホームの中では体操、作業治療などで頭と体を動かしていただくこと
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者・職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者の思いに添う支援を実践している。利用者にとって「安心した居場所になっているか」、「毎日笑顔を引き出されているか」等の職員の気づきが、介護記録や申し送りや把握され、個別ケアの介護計画に活かしている。利用者の保有能力を活かし本人の達成感にも繋げている。季節や地域の行事に合わせたり、カラオケなど利用者の個別の希望に合わせたりして、車椅子の利用者も一緒に外出し、地域住民とふれあえる機会作りを実践している。利用者・家族・職員それぞれが、「安心感」を得られるよう日々支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんも職員も全員市内の住民であり地元の感覚で接し語り理念である「安心感」につなげている	職員で話し合っ「安心感」を理念としている。利用者一人ひとりの安心感とは何かを考え、一人ひとりが物心両面で安心できる暮らしを支援することを、管理者・職員と一緒に会議等で話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所、民生委員、福祉委員、地域代表と交流が有りゴミ当番の仲間にも入れてもらっている	地域に事業所の行事案内を配って歩き、行事に参加してもらい交流している。近隣とは日常的に挨拶や会話を交わし利用者にも気さくに言葉をかけてもらっている。介護の困りごとの相談も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してまた、お祭りの参加、文化センターのイベントの参加などで支援の方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状報告、行事報告、ヒヤリハットを報告して参加者から意見を頂いている	家族に通信で会議日程を知らせ参加を促している。民生委員から住民の介護相談があり入居につなげたり、地域水害時の避難の助言を受けたりしている。助言についても職員と共有しながら支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政さんとは運営推進会議に出席して頂く事で連携をとっています。そこで報告要望を伝えます	市の関係機関とは常に実情の報告や利用者の相談事などに出かけている。担当者から電話での問い合わせや訪問時には情報を受けながら協力関係作りに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、つなぎ服、4点柵をやっていたこともありましたが、ミーティングなどで改善に向けての話し合いをして今は身体拘束はしていません	身体拘束をしないことやその弊害を職員同士話し合っている。検討記録を作成しやむを得ずの拘束に家族の了解を得ている。現在は要因の疾病が治癒し拘束をしていない。長期にわたった拘束中の経過記録はあるが、拘束をはずす検討記録が見当たらない。	疾病等による拘束といえども、早期拘束解除への話し合いと取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止について研修を受けており、職員にも徹底しています		

グループホーム 夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修受けており、成年後継制度の経験もあるので活用できるように支援できる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、施設長より十分な説明をします。改善の際は文章にて家族に伝達します		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんや家族の意見は面会時での聞き取り、こまめな電話連絡などで連携をとり、運営に反映させている	家族には、毎月の生活たよりに、利用者の様子や行事等の報告をし、意見が欲しい旨書き添えている。年1回満足度アンケートを行い要望を運営に反映している。本人が「手紙を出したい」や、家族から「食事(献立)」等の意見を受け実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃は朝夕の申し送り現状を報告しあい、月に一度のミーティングでケアマネ・代表者もまじえて意見提案を反映させている	月1回の会議や日常の中で意見を聞いたり、気になる職員には個別に聞いている。年1回は個別面談で出した意見を運営に活かしている。利用者の受け入れ時も情報を共有し支援方法の検討をしている。備品の故障・修理等の要望も即対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面談を通して職員の意見・希望を聞き取り各自が向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員が学べる機会を積極的に増やし働きながらトレーニングできるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は研修などを通して同業者と交流する機会を作り、勉強したことはサービスの質の向上につながっている		

グループホーム 夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者宅におもむき本人、御家族と面会する事を大切にしている。要望に耳を傾けケアプラン作成にもつながっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ、管理者が入所前に家族訪問、不安や要望を聞き取り職員にも伝えてケアに活かしていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が一番困っていることを優先してどのような支援が良いのか見極め他のサービスも考える		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下ごしらえ、縫い物、掃除など本人の能力に合わせて積極的に動いて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで状況を報告、どう支援していくかを相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の面会、お墓参り、一時帰宅など馴染みの人や場所との関係が続くように支援していく	友人知人の訪問は頻回にある。買い物や喫茶店に出掛け交流の継続を支援している。訪問時間は訪問者の都合にあわせて関係が途切れないよう対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や関係性を把握して、助け合えるような環境作りに努めている		

グループホーム 夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状によって退所となり、入院生活になられても職員が交替して声掛けに行き関係を保っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを重点にプラン作成をしています 個別に面談する事で把握に努めています	利用者の「入居したことを他人に知られたくない」「自力で車椅子に座りたい」との思いに、リスクを考慮しつつ思いを叶えている。介護記録・申し送りノートからも意向を把握している。その日の気分によっての要望にも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の面談の際に御家族より聞き取りを行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りノート、スタッフからの聞き取り等で情報を得ています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにおいて、ケースカンファレンスを行いアイデア等を出し合っています	月1回の会議で職員の気づきや意見を取り入れ、モニタリングをしている。また、家族・医師の意向を聞きながら介護計画を作成している。現状に即しているか確認しながら、ケアマネジャーは職員にも理解しやすい言葉で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や申し送り等を活用し、把握に努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアという事を心がけ、一人一人に必要なと思われるサービスを行います。食事等、時間差で提供しています		

グループホーム 夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り(竹鼻まつり、藤まつり)等に出かけます。日常的に近隣の公園へ散歩します		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から馴染みのかかりつけ医を希望された方は継続しています	本人・家族の希望に合わせて従来のかかりつけ医としている。家族同伴の受診時は管理者も同行し情報を共有している。かかりつけ医の往診もあり、訪問看護とも24時間連携が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談し、医療へ情報提供に頂いています。又、利用者さんの状態で心配な時は看護師さんに連絡をして指導を得ています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時には情報提供を行います。入院時には面会を行い病院スタッフより状況を聞き取っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に御家族より看取り等の等の希望を確認しています。終末期にはその都合、方針を確認しています	契約時に事業所の方針を説明し、本人の終末期の医療に対する希望を書面にしている。状態の変化に合わせて家族・医師・訪問看護師・事業所等と話し合いながら支援している。職員の心理的不安や対応に対するの学習指導が充分ではない。	事業所としてのマニュアルを整え、日頃から重度化に対する心構えなどを学ぶことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の訓練を定期的に行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施しています。消火器の使用方法も指導を受けています	夜間想定を含め避難訓練を実施している。地域災害に対しても運営推進会議で意見や助言ををもらい検討している。備蓄もある。しかし利用者の状態に合わせた具体的な避難誘導策・避難経路などが、職員の間で熟知されていない。	安全に避難できる経路を確認し、時には実際にふまえた訓練となるよう、地域の協力をお願いしたり、職員の危機感を持った行動が望まれる。

グループホーム 夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や、身体状況に合わせた言葉かけや支援を心がけている	日々利用者の言動を見逃さず、本人の自立に向けた見守りや声かけに努めている。特にトイレ介助には、羞恥心を配慮し、ことばの内容や語調等が自尊心を損ねていないか確認しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、買い物、一人での散歩など御家族の了解も得て自分で決定できるようになっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日であっても、利用者の気がむかなければ別日にしたり、おやつの時間であっても眠っていたければそのようにしてもらう		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院の先生に会うのにお化粧をしたり、外出というよそ行きを着たりいつもと違う事を褒めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	フルーツの皮むき、野菜のすじ取り、お絞りをたたみなど楽しんで参加して頂いている	担当職員が家庭菜園の食材を利用したり、利用者の好みや栄養を考えて調理している。利用者に合わせた形態にして、職員も食卓を囲み自力摂取を見守っている。旬の食材を話題に和やかな雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を毎日記録に記入し把握、身体状況にあわせた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の食事後に歯磨きの方、モンダミンでうがいの方、入れ歯洗浄の方と分けた口腔ケアをしている		

グループホーム 夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行困難な利用者は夜間はオムツであるが、日中はトイレでの排泄支援をしている	オムツから紙パンツ、布パンツへと自立支援に取り組んでいる。本人から布パンツの希望があり、失敗をしない工夫をしながら叶えている。夜間もトイレ・ポータブルトイレに誘導しオムツを使用しない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物質の多い野菜を取り入れて、飲み物にはオリゴ糖をいれて工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者さんの希望や体調に合わせて曜日や時間変更をしている	入浴の順番や湯船につかりたい等、本人の希望や状態に合わせて対応している。無理強いせず気持ちよく入浴できるよう、本人の気分を尊重している。1対1で昔話や趣味の話などをして入浴が楽しみになるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して休息や、眠れるように支援は出来ている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の症状と薬の内容を把握しており、身体状況の変化によっては主治医と相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内では歌のDVD体操、作業療法などで気分転換。外ではカラオケ外出が喜ばれた		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	喫茶店、カラオケ、お墓参りなど本人の希望で出かけられる支援をしている	「一人ひとりの思いに添った外出支援」を目標にしており、急な外出希望も叶えている。年、数回の外食も車椅子、ミキサ一食の利用者も一緒に出かけている。地域行事・季節の花見も計画し出かけている。	

グループホーム 夢家族・丸の内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族からお小遣いをもらっている利用者さんは自由に使えるよう、買い物支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたい時は、ホールの電話を使ってもらい手紙も本社職員が家族に届ける		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前は四季の花を育て、その季節の作業療法の作品を飾っている。廊下には出かけた時の写真を飾っている	玄関口に野菜や花を育てている。理念を玄関に、利用者の手作りで掲げている。共有空間は広くはないが、職員の工夫で安全に整備し家庭的な雰囲気になっている。書道が生きがいの利用者の作品や行事写真など廊下に掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さん同士がお話ができるように、向かい合わせの席にしたり、テレビの好きな方にはテレビの前になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、お嫁さんのパッチワーク、習字の道具など本人にとって大切なものを置いています	入り口に好みののれんを掛けている。自作の塗り絵・貼り絵・娘のパッチワーク等自由に飾っている。居室で読経したり、テレビをみたり、本人の暮らしにあわせて居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯たみの上手な女性、掃除の上手な男性、習字の上手な男とそれぞれの得意を發揮してもらっています		